



CLOSE UP VOICE

老津木工有限会社  
代表取締役 松井 誠さん

地域の森林資源を未来へ  
価値創造で開く新境地

オーダーメイドでの木製建具・家具製造販売を主力とし、個人住宅から各種施設まで幅広い受注実績を持つ老津木工有限会社。最新デジタル機器と熟練した職人技の融合により、唯一無二の製品づくりに邁進するほか、近年は、奥三河産の間伐材を活用した、豊橋技術科学大学との共同開発による木育キットや、飲食業界の新しい営業スタイルに対応した組立式屋台など、社会的意義を備えた高付加価値型の製品を次々と世に送り出している。地域資源を活かし、時代の要請に応える取り組みについて伺った。

地元の間伐材に  
命を吹き込む

——貴社の歩みと事業内容についてお聞かせください。

松井▼老津木工有限会社は、昭和51年に祖父が創業した、大工向けに木材を卸す木材店から始まりました。二代目である父は、その木材店を土台に事業を拡げ、建具業に乗り出し、木製建具用の材料販売にも力を入れました。しかし、家の扉や襖、障子といった木製建具が当たり前

だった時代が去り、住宅の洋風化やプレハブ住宅の普及、アルミや樹脂製建具の定着が進み、木製建具の市場は縮小していきました。

私は、大学卒業後、全く異業種であるプライダル業界に就職しましたが、31歳の頃、父が病を患ったことをきっかけとして、もともと自分で商売をやってみたい気持ちもあり、家業へ入ることを決心し、最初は建築図面の勉強から始めました。しかし、実際に家業に身を置いてみて痛感したのは、建具だけでは、これから先は厳

しい、という現実です。

そこで、戒名や没年月日を記して墓に立てる卒塔婆（そとば）や、結婚式場の演出会社から依頼を受けた、司会者が立つ箱状の演台なども手がけ、木材を加工して新しい価値を生み出すという方向に徐々にシフトしていきました。

現在は、建具材からオーダーメイド家具まで幅広く手がけ、自然素材の持ち味を最大限に引き出す国産木製家具の製作を行うほか、伝統技術とデジタル加工機の最新技術を活用した個性豊かなデザイン家具の製作、地元の間伐材を使用した製品の普及にも努めています。

——貴社の経営方針について教えてください。

松井▼大手工場の生産力向上と価格競争の激化により、安価な大量生産品が市場を席巻するなかで、当社にはあえて「既製品には産み出せない価値」の創造に取り組んでいます。お客様の「こんなものがあつたら」という想いをもとに、原木の状態で作られた国産木材と熟練した職人の技を組み合わせて、唯一無二の製品を形にしています。

最新のデジタル工作機器を活用して製品のベース部分を制作したうえで、熟練の職人による繊細な仕上げや加工を施すことで、機械だけでは

生み出せない質感を実現しています。デジタル技術の精密さと、手仕事の温もりの融合が、市場における当社の差別化を支えています。

時代の変化を受け止め、自分たちの技術を活かして新たな市場を切り開くことが、事業を持続させる道だと考えています。「世の中になんもない」を生み出し続けることにより、規模ではなく価値で選ばれる存在となるのが当社の目標です。小粒でもピリリと辛い山椒のように、小さくても存在感のある会社を目指しています。

——建具類の原材料である国産材を取り巻く課題を教えてください。

松井▼日本は、国土の約3分の2を森林が占めるにもかかわらず、国内で使用される木材の約80%を輸入に依存しています。一方で、多くの山林では、人手不足や採算性の低さから管理が行き届いていません。地元の豊根村でも、安価な輸入材の流入や高齢化・過疎化によって需要と供給のバランスが崩れ、必要な間伐が追いついていない状況です。間伐が滞ると、木々が密集して光や風が遮られるため、木の根が発達不足となり土砂災害や洪水のリスクが高まります。

こうした課題の解決策の一つが、間伐材の有効利用です。間伐材を使うことは、森林管理の経済的負担を軽減

INTERVIEW



老津木工 有限会社  
豊橋市老津町中聖38-1  
0532-23-2528

朝市が甚大な被害を受け、大規模火災によって多くの商店主が販路を失いました。当社としても支援を模索していたところ、ニュースで金沢市における能登出張朝市の様子を目にし、組立式屋台が役に立つかもしれないと考え、直ちに連絡を取りました。結果、長期の無料レンタルの形で約10台の組立式屋台を提供し、搬送から組み立てまで対応し、大変喜んでいただきました。

さらに、その後、出張朝市の開催場所が確保できないという課題が生じたため、それまでに培ったネットワークを活かし、イオンモール豊川様にご縁をつなぎました。この橋渡しにより、東海地方で初となる「輪島出張朝市」が開催され、来場者は予想を大きく上回り、多数の報道機関による取材も入って、支援の輪が広がる契機となりました。加えて、豊橋市立本郷中学校の生徒がデザインを手

ワークショップの提携団体を募集し、この取り組みを全国に広げていきたいと考えています。

**社会貢献の可能性を拡げた「組立式ヤタイ」**

——もうひとつの「組立式ヤタイ Patto(パット)」はどのような製品ですか。

松井▼「工具を使うことなく短時間に設置できるモジュール型什器です。女性でも約10分で組み立て可能な軽量設計で、持ち運びや収納の容易さが特徴です。キッチンカーを持たない事業者様でも、マルシェや店頭販売といった屋台空間を手軽に展開・演出できます。無塗装状態のため、店舗のイメージカラーで塗装したり、ロゴをあしらったりできる自由度の高い製品です。全国から注文が寄せられており、低コストかつ機動性の高い、新しいタイプの屋台として注目いただいています。

開発のきっかけは、2020年に新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が発出され、飲食店のテイクアウト販売やテラス営業が急速に広がったことです。テイクアウト型マルシェで、移動販売に慣れない店舗が、折り畳み式の会議机に弁当を並べて販売している光景を見て、「もっと雰囲気のある屋台を木で

がけ、当社社員がレーザー加工機で成形した、輪島復興をテーマとするベニヤ板端材製コースターを販売しました。販売収益の全額を朝市関係者へ寄附することができ、地域と被災地をつなぐ取り組みとなりました。

これらの取り組みを通じて、被災地産品の販路拡大や地域商業施設の集客向上に加え、地元の中学生に社会的意義のある学びを提供できたことなど、多面的な波及効果が生まれました。

人と人とのつながりに喜びを感じ、企業としての社会貢献のあり方に、新しい可能性を見出せたと思います。

——今後の目標や将来のビジョンを教えてください。

松井▼「木工業界では現在、人手不足や職人の高齢化が深刻化しております。業界全体の人材力や技術力の底上げを図るためには、若い世代がものづくりに関心を持つきっかけを作ることが不可欠です。加えて、安定した雇用条件や働きやすい職場環境を整えることも、若手人材の採用・定着には欠かせません。当社では「次世代を育てる」ことを重要な使命と位置づけ、働く環境の改善と人材育成の両面から、取り組みを強化しています。

その一環として、豊川特別支援学校や小学校などの教育機関において、木工職人による技術指導を継続

「世の中にないもの」を生み出し 規模ではなく価値で選ばれる存在へ

PRODUCT INTRODUCTION



設計・デザイン監修: 水谷晃啓  
ボムチェア  
**POMchair**

豊根村の間伐材を活用した自分で組み立てる木製チェアの組み立てキット

- Sサイズ 7,800円
- Mサイズ 9,800円
- Lサイズ 11,800円 ※送料別



パット  
**組立式ヤタイPatto**

持ち運びやすく、屋台空間を気軽に展開できる簡易的な組み立て式什器

- 幅1800×奥行600×高さ1800
- 69,800円 ※送料込み(遠方追加有り)

詳しい情報は はこちらから

Instagram

HP

作れないか」と思い立ったことが始まりです。

そこで、交流のあった豊橋技術科学大学の建築設計サークル「TYACC」と連携し、学生が設計・デザインを、当社が製造を担当する共同開発をスタートしました。マルシェに出店する業者に実際に使ってもらい、現場で出た声を反映しながら試作と改良を重ね、部品点数を必要最小限に削減してコストを抑えた、実用性と経済性を兼ね備えた現在の製品が完成しました。

——飲食店が非常に厳しい状況にあった時期です。反響はいかがでしたか。

松井▼「2021年の発売直後から、新聞やテレビなどのメディアで紹介されたこともあり、各所から多くの反響をいただきました。道の駅をはじめ、地域内外の様々な施設・事業者様から問い合わせがあり、利用シーンはイベント会場だけでなく、店舗内の常設ディスプレイや販促什器としても採用され、用途が広がっています。幸いにも、環境配慮と社会的付加価値の創出といった点が評価され、2025年2月には、第7回あいちサービスマグ賞特別賞を受賞するに至りました。

発売後、様々なニーズ・需要に応える

関心と憧れを育む機会となり、将来的な人材確保と技能継承の土台づくりにつながるものと考えています。

地域資源の新たな価値を創造し、それを全国へ発信できる製品づくりは、私たちにとって大きなやりがいです。同時に、地方からでも新しい産業や雇用を生み出し、地域経済の活性化につながれると信じています。これからもクラウドファンディングなど新しい手法を積極的に取り入れ、遊びどころも忘れずに製品開発やものづくりに挑戦し続けたいと思っています。

るため、本体の機能を補うスピノフ製品として、商品を傾斜展示できる「斜め置台」や、多彩に利用できる「ハイテーブル」、告知や装飾に活用できる「組立式ディスプレイボード」なども新たに誕生しています。いずれも、本体と同様に工具不要で組み立て可能な利便性と、木材ならではの温もりあるデザインを備え、導入現場の演出力を一層高めています。

——製品を通じた社会貢献の取り組みがあれば教えてください。

松井▼「2024年2月に発生した能登半島地震で、石川県輪島市の

「世の中にないもの」を生み出し 規模ではなく価値で選ばれる存在へ

